

災害支援・教育復興にむけて

つなぐ



日教組災害対策本部

〒101-0003

東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

HP:<http://www.jtu-net.or.jp/>

東日本大震災復興支援ボランティア(第21次)参加報告

日本教職員組合 栗原 健

第21次連合ボランティア団は、8月28(日)から9月3日(土)まで、作業日は5日間という日程で、岩手でボランティア活動を行った。連合全体で88人、日教組からは北海道から鹿児島まで各地域から9人が参加した。第21次は大東の閉校した小学校がベースキャンプ。陸前高田と大船渡の復旧・復興の手伝いを行い、日教組部隊は主に陸前高田で活動した。今回の「つなぐ」では、ボランティアの様子を写真を中心に紹介します。

陸前高田の作業地に向かう途中の風景

まっさらな平野と大量の瓦礫



巨大な瓦礫の山



水の引かない平野に転がる車



大量の廃車



破壊された防潮堤



破壊され、水に浸かったままの野球場



陸前高田の作業地

＜田んぼから引き上げられ積み上げられた瓦礫＞
 大きささまざまなものが流されてきている



＜草刈り＞
 つなぎの中は
 汗びっしょり



＜奥は手付かずの状態…延々と田んぼが続く＞
 手前は草を刈って瓦礫を撤去した場所



＜水をたっぷり吸った畳は三人がかり＞
 田んぼにたまった泥水やぬかるみには、大きな
 家の部材や釘がむき出しになった危険な瓦礫が
 たくさん隠れている

＜ボランティアはつないでいくことが大切＞
 次の団が作業する際の危険を取り除くため、
 泥水を抜く水路作り

1～3日目は陸前高田の田んぼでの作業。草刈り・運搬、瓦礫撤去・運搬をひたすら続ける。作業中は想像以上に暑く、午前中だけでつなぎの中はびしょびしょになる。無理をしても良くないので20分に一回くらいの休憩でちょうど良い。作業の際、残念ながら21次団から釘の踏み抜きでのけが人が出てしまった。釘は鉄のインソールでもカバーしきれない靴の横から刺さった。泥水で底が見えない中では注意していても防ぐことは簡単ではない。3日目は水路作り。安全に作業できる環境を次の団に残すため、泥水排水用の水路を作る。

4日目は台風の接近情報から陸前高田 VC が作業中止を決定。大船渡で側溝の泥だしと袋詰め作業を行った。昼過ぎから雨が降り始める。作業の継続を迷ったわずかな間に雨は強くなり撤収決定。急いで開けていた側溝の蓋を戻そうとしたが、あっという間に水は道路に溢れ、どこに蓋を戻してよいかわからない状態に…。雨の中びしょびしょになりながら必死の作業。



VC・BCの様子

依頼案内を見ている班長たち



VCの道具置き場



BC内・水やヘルメットなど



BCでは、決して報道には流れない話が被災した方から語られた。押し寄せてくる津波から他人を傷つけても逃げる恐ろしい状況、人の悪意や業があらわになった避難所での厳しい生活。その方も必死に心の均衡をとろうとしているようだった。

陸前高田は見渡す限りの平地に引かない水と瓦礫の山。人々の生活は続いている。テレビで見ただけでは感じられない何かが重く現実感をもって迫ってきた。

一方、我々ボランティアの働きが復興のバネになっている、地域の人はBCとして再び灯がともった小学校を大変うれしく思っているとのメッセージもいただいた。

3.11 以来、多くの人が時間が止まったと言う。一つ一つのボランティア団は短い期間に少しの作業しかできない。しかしそうしてわずかでも復興の手助けとなり、気持ちに寄り添える活動をつないでいくことしかないのだ。



第21次連合ボランティア団日教組の面々 だピョン！

ピンクのTシャツはおなじみ岩手の被災地支援Tシャツ